

【心の土台】

ルカによる福音書6章

6:43 「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。

6:44 木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。

6:45 善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」

6:46 「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。

6:47 わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。

6:48 それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。

6:49 しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

ふたつのことが語られています。

1) 木は種類ごとの実を实らせる
良い木は良い実を、悪い木は悪い実を

生み出す。

そして、それに続いて、心にある言葉が外に出てきて、行動にも出てくるというメッセージです。

私たちはよく「心にもないことを言ってしまった」という表現を使いますが、イエス様は「心にあるから出てくるのだ」と

言っているようです。

そうになると、心を清くする、心を整えるという作業が必要になるわけですが、これは自力ではどうしようもないのです。

そのつもりでリセットしても、リセットしても結局元のところに戻ってきます。

その際、希望が持てることがあるとすれば、接ぎ木による新しいいのちの注入です。

接ぎ木は木の種類によっても、その難しさは違うようですが、それでも、接ぎ木された木がいのちをつなぎ、その流れができて、元の木にはなかった美しいものを実らせることができるようになります。

イエス様への信仰はまさに、イエス様との接ぎ木と考えて良いと思います。台木はイエス様であり接ぎ木されているのは私たちです。

そこにこそ、希望があるのです。

私たちが良い実を結ぶためにはイエス様の新しいいのち、と、愛が必要なのです。

2) 聞くことと実行すること
イエス様から新しい命をいただき、そ

の教えに親しむ中で、私たちは案外頭でっかちになり聞いているとすでに「わかったような気分」になって、結局、実行しないまま、「知っているつもり」になってそれで終わりにしてしまいやすいのではないのでしょうか。その危険性を伝えるべくイエス様は次の話に進みます。

3) 具体的な事例としての「土台のあるなし」

岩の上に建てた家と土台を考えずに建てた家の違いは、外側だけ見たのではわかりませんが
苦しい状況に直面すると、すぐに違いがわかります。
岩を土台にしている人にも、砂の上に家を建てている人にも、同じように雨が降り、風は吹き付けます。
土台があるなしに関係なく、人間は様々な出来事に直面します。

つまり、イエス様を信じていても、いなくても、とてもつらい出来事に直面したり、病気になるったりするわけです。
でも、岩を土台にしている人と、そうでない人には、そういう問題に直面したときに
反応の仕方が異なります。
よく「苦しいときの神頼み」という言葉がありますが、基本的にはそういう願いや思いは
極めて自然な反応だろうと思います。
しかし、せつかく苦しいときに祈ったり、お願いしたりして、乗り越えられたとき、

私たちは、その喜びを忘れてしまったり、感謝する心が持続しなかったり、ほんとうに苦しいときだけの「神さまとのお付き合い」（神さまを利用するだけ）の関係になってしまうことがあるのです。

それはとても、もったいないことです。

良いときも悪いときも安心して生きるためには、神さまとの関係を常態化させておく必要があります。

4) それではどうすればよいか

*接ぎ木をすることで新しい命をつなげる

*しっかり土台を固めることで安心した人生を構築する

と言いましたが、具体的にはどういうことなのでしょう。

岩とはなんでしょう。

聖書の中に有名な箇所があります。

マタイによる福音書16章

13 たとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。

14 弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」

15 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」

16 シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

17 すると、イエスはお答えになった。

「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。

18 わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。

19 わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」

20 それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた

イエス様はペトロの信仰告白を「岩」と理解されました。

「イエス様こそキリスト、神の子」という信頼が心に育った時、それはまさに、土台の岩を手に入れたことに似ています。

その信仰告白の上に教会を建てるイエス様は言われました。

私たちは各自が聖なる宮として理解されていますので、私たちの心にその信仰告白はとても大切です。

そのためにも、「聖書の言葉を少しずつ心に蓄え、心に生かすということも、また岩を構築するための準備になるでしょう。

聖書の言葉は、私たちを確立させるための岩となります。

今は、集まれていませんが、でも、そこに存在する絆は確実です。

御言葉により、イエス様につながって

いるからです。つまり岩の上にそれぞれの

足場を固めているのです。

その線を崩してはなりません。

【感謝】

この礼拝には、友人のサキソフォン奏者：安武 玄晃（やすたけ もとあき）さん

声楽家：小浜 麻里（こはま まり）さん

ピアニスト：樋口 友（ひぐち ゆう）さんが

不思議にも時間の都合がついて、収録に参加してくださいました。

心から感謝します。

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/1r-7bDAGIDk>